

令和六年度 後期日程 文学部 日本・中国文化学科
入学者選抜学力検査問題 国語

〔注意〕

- 1 机上に受験票を提示しておくこと。
- 2 監督者の指示があるまで、この冊子を開いてはいけない。
- 3 解答は必ず別紙の解答用紙の指定された箇所記入すること。
- 4 解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入すること。受験番号・氏名が記載されていない答案は無効となる場合がある。
- 5 この冊子の問題は余白を含めて十ページ、解答用紙は一枚からなっている。
- 6 この冊子のうちに落丁・乱丁、印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて申し出ること。
- 7 この問題の内容に関する質問には答えない。
- 8 この問題の満点は百点であるが、科目配点に応じて三百点満点に換算する。
- 9 字数制限のある解答では、句読点や括弧なども字数に含める。
- 10 試験時間中の退出は認めない。
- 11 問題冊子は持ち帰ること。

一

次の文章をよく読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合で文章の一部を省略し、表記を改めたところがある。(40点)

(著作権の関係で不掲載)

（著作権の関係で不掲載）

（著作権の関係で不掲載）

(著作権の関係で不掲載)

(佐藤信夫『意味の弾性』による)

(注) ○ソシユール……フェルディナン・ド・ソシユール。スイスの言語学者(一八五七―一九一三)。○ラング……同じ言語社会に属する人々の言語活動の中に共通して内在する言語体系。ソシユールの用語。○レナード・ブルームフィールド……アメリカの言語学者(一八八七―一九四九)。本文ではソシユールに対立する言語観を持つものとして位置づけられている。○シニフィアン……記号の意味内容に対する物理的な音声による記号表現。ソシユールの用語。

問一 傍線部①⑤のカタカナを楷書の漢字に改めよ。

問二

に入る本文中の最も適当な語句、および

に入る「絶対」の対義語にあたる語句を、それぞれ漢字二字で記せ。

問三 傍線部Ⅰ「土俵の共有性」とは、どのようなものか。わかりやすく説明せよ。

問四 傍線部Ⅱについて、この規定の例は、どのような点で「循環的性格」を持っているのか。わかりやすく説明せよ。

問五 傍線部Ⅲについて、この「期待」とは、どのようなものか。傍線部Ⅲより前の文中の表現を用いながら、三十字以内で記せ。

問六 傍線部Ⅳについて、「この同一視」とあるが、これはどのようなことか。筆者が説明している最も適切な箇所を、末尾が「～こと」につながるよう本文中から六十字以内で抜き出し、始めと終わりの五字を、それぞれ記せ。

(余
白)

二

次の文章をよく読んで、後の問いに答えよ。(30点)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(『撰集抄』による)

(注) ○二基の塔……春日大社の東塔と西塔。 ○俊恵……平安時代の僧・歌人。 ○嘆徳……徳を讃えること。 ○高野……高

野山。 ○殺業……殺生の行為。

問一 傍線部 ア ㄱ エ を、文脈に即して現代語訳せよ。

問二 波線部 I について、「これら」の内容を明らかにして現代語訳せよ。

問三 二重傍線 ① について、「花月の情」とは何か。わかりやすく説明せよ。

問四 波線部 II について、「そのままにして」とはどうすることなのか、わかりやすく説明せよ。

問五 波線部 III について、なぜそうなったのか。わかりやすく説明せよ。

次の文章をよく読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合で送りがなを省略したところがある。(30点)

伝神之難在^レ目^ニ。顧虎頭云^{ヘラク}、伝^レ形^ヲ写^{スハ}影^ヲ、都^{オベテ}在^リ阿堵^ト中^ニ。其次^ハ在^{リト}顧^{くわんげふニ}頰^ニ。吾^ア嘗^ニ於^{イテ}灯^ニ下^ニ顧^{ミテ}自^ラ見^{ルニ}頰^ノ影^ヲ、使^ア人就^レ壁^ヲ摸^レ之^ヲ、不^レ作^ニ眉^目、見^者皆失^ル笑^ニ。知^{レバ}其^ヲ為^ル吾^也。目^ト与^ニ顧^頰似^{レバ}、余^ハ無^シ不^レ似^ル者^ニ。眉^ト与^ハ鼻^口可^キ以^テ増^{シテ}減^{シテ}取^ル似^ル也^ヲ。伝神^ト与^ハ相^ニ一^{ニシテ}道^ニ、欲^{セバ}得^ニ其^ノ人^ノ之^ヲ天^ヲ、法^イ当^下於^ニ衆^中陰^察之^ヲ。今^ハ乃^チ使^下人^ニ具^{ヘテ}衣^ヲ冠^ヲ坐^シ、注^中視^一一^上物^ヲ、彼^ハ方^ニ斂^{をミメテ}容^ヲ自^ラ持^{スルニ}、豈^カ復^タ見^ニ其^ノ天^ヲ乎^ヲ。凡^ド人^ノ意思^ハ各^々有^リ所^ル在^ル、或^{イハ}在^リ眉^目、或^{イハ}在^リ鼻^口。虎頭云^{ヘラク}、頰^上加^{フレバ}三^毛、覺^{ユト}精^ニ采^ニ殊^ニ勝^{ルヲ}。則^チ此^ノ人^ノ意思^ハ蓋^シ在^ル鬚^頰間^ニ也^ヲ。優^ニ孟^ビ学^ビ孫^{そん}叔^{しゆく}敖^{がうヲ}、抵^{ウチテ}掌^ヲ談^ニ笑^シ、至^ル使^三人^ニ謂^ニ死^者復^タ生^{クト}。此^ハ豈^カ拳^ニ体^ニ皆^ニ似^シ、亦^モ得^シ其^ノ意^思所^ラ在^ル而^レ已^ニ。

使^工画^者悟^ニ此^理、則^チ人^人可^キ以^テ為^ル顧^陸。

(蘇軾「伝神記」による)

(注) ○伝神……肖像画。

○顧虎頭……顧愷之。東晋の画家。中国最高の画家とされる。

○阿堵……これ。ここでは目のこ

と。

○顧頰……頰。

○相……人相見。

○天……天から与えられた本質。

○斂容……威儀を正すこと。

○優孟……

戦国時代の道化役者。

大臣の孫叔敖の死後、その姿を真似るとみんな孫叔敖が生き返ったかと思つたという。

○拳体……

全身。 ○顧陸……顧愷之と南朝宋の陸探微。すぐれた画家として並称された。

問一 傍線部 a ｝ e の読みを、現代仮名遣いにより、送りがなも含めてすべてひらがなで記せ。

問二 傍線部 アを現代語訳せよ。

問三 傍線部 イを

- (1) 現代仮名遣いにより、すべてひらがなで書き下し文にし、
- (2) 現代語訳せよ。

問四 傍線部 ウで述べている内容を説明せよ。

問五 傍線部 エを

- (1) 現代仮名遣いにより、すべてひらがなで書き下し文にし、
- (2) 「此理」の内容を補って現代語訳せよ。